

実践報告

札幌市立福井野小学校

(1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくり等の研究」

- 学校生活で生じる身近な問題、学級指導「命を守る学習」、道徳教育を主とした「友情」や「助け合い」の学習等を通して、「人権」について視点を広げ、人権を意識し尊重する態度を育てるとともに、人権意識を教育活動全般に波及させていくことを目指す。（一昨年度より継続）

(2) 実践の内容

【実践①】学級指導「命を守る学習」－「見つけよう、自分らしさ」（4年）について

- ねらい
 - ・ 友達のよさに気付き認め合うことで、自分も友達も大切にしようとする心を育てるとともに、ものの見方や考え方を変えて心を元気にするリフレーミング¹について知る。
- 学習内容
 - ・ 事前に実施した Hyper-QU のデータをスクールカウンセラー（以下 SC）に解析してもらい、個々の困り感や学級の状況を客観的に把握した。それを基に構成したこの実践では、自分や相手のよさに気付く場を設定したり、同じ絵でも見方を変えると違うものに見えることからリフレーミングのよさに気付き、自他を大切にすることを高めた。

【実践②】SC による授業「アサーション²を使おう」（6年）について

- ねらい
 - ・ 自分らしさに気付くとともに、自分と相手を大切にすることをアサーションについて知り、日常生活で自他を大切にしながら共に気持ちよく過ごそうとする態度を育てる。
- 学習内容
 - ・ Hyper-QU のデータ解析を通して学級の状況や個々の様子について把握した SC による授業である。対話形式で日常の学校生活でよく起こる具体的な事案を取り上げ、アサーションについて知ったり、活用トレーニングをしたりして、身近な場面で使えることや、その結果自分も相手も気持ちよく過ごすことができることに気付いた。



¹ リフレーミングとは、異なる見方で捉え直すこと。

² アサーションとは、自分も相手も大切にすることを表現方法。

【実践③】なかよし標語（全学年）について

○ ねらい

- ・ 自分も友達を大切にして共に気持ちよく過ごすためには、よりよい言葉がけが大切であることに気付く。

○ 学習内容

- ・ 年間通して取り組んでいる異学年交流「なかよし活動」に因んだ「なかよし標語づくり」を全校児童に呼びかけ、5・7・5で表現する。
- ・ 集まった標語を廊下の掲示板に掲示する。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 一昨年度および昨年度の成果に基づき、自他の関わりについて「人権」という視点から捉えていくことができた。さらに、友達の人権を守るために相手とどう接すればよいのか考えさせ、よりよい言葉がけを意識させていくこともできた。
- ・ 心理面、行動面が大きく変化し、子ども理解が難しくなってくる高学年に Hyper-QU を実施し、子どもの内面を客観的に捉えたり指導に生かしたりすることは、子どもの人権問題であるいじめや不登校の予防・早期発見および解決につながった。



② 課題

- ・ 保護者アンケートに「人を思いやる子に育っています。」「進んで挨拶できる子が多いと思います。」等の回答が寄せられていたが、それが一部に終始するのではなく、広く福井野小の子どもの特性と言えるよう、継続的に人権教育を推進していくことが必要である。
- ・ 人権教育の効果を高めるのは、教職員が「何のために取り組むのか」「どう取り組むのか」を共有化していることが大切である。今後は、共通理解を図るための研修の場を設けたり、教育課程の中に明確に位置付けたりすることが課題である。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 共生の心を育む人権教育を学校づくりの基盤とすることで、保護者や地域から愛され期待される学校づくりができると考え、今後も推進していきたい。